

# 四川に起源する宣講集の編纂

—— 方言語彙から見た宣講集の編纂地 ——

阿部泰記

## 一 はじめに

清朝政府は民衆教化政策のため、順治帝の聖諭六訓、康熙帝の聖諭十六条を全国で宣講させたが、その実効性を挙げるために、通俗的な言語を使用した具体的な案証が例示されることとなった。その開始がいつ頃かは定かに確認がたいが、案証を編集した最初の作品は、王錫彝編『宣講集要』十五巻であった。

『宣講集要』がどこで編纂されたかは明記されていない。ただ巻首に「四川全省督撫札諭七章」を掲載し、四川の案証が多く、西南官話が使用されていることからすると、四川で編纂された可能性が高い。巻五に四川総督の勸善文を収録するところからもそれがうかがわれる。

現在、四川では宣講はすでに絶滅したと言われ、わずかに湖北の漢川地域に行われるのみであるが、実は宣講集の起源は四川にあったのではないだろうか。本稿では『宣講集要』をはじめとする宣講集の方言語彙から宣講集の編纂が起った地域が四川であったことを検証する。なお方言語彙については復旦大学・京都外国語大学共編『漢語方言大

詞典』（一九九九、中華書局）を使用した。

## 二 『宣講集要』と方言

『宣講集要』の巻首には「宣講聖諭規則」「欽定学政全書講約事例十五摺」「四川全省督撫札諭七章」を掲載している。

「宣講聖諭規則」は聖諭宣講の儀礼を記述する。ここでは聖諭六訓十六条の宣読のほか、文昌星の「文昌帝君蕉窓十則」、関羽の「武聖帝君十二戒規」、呂洞賓の「孚佑帝君家規十則」、竈神の「竈王府君訓男子六戒」「同訓女子六戒」「同新諭十条」を宣読することになっており、すでに民間信仰の色彩が濃厚である。

「欽定学政全書講約事例」は順治九年（一六五二）の六諭臥碑文の頒行から嘉慶十四年（一八〇九）の御史周鉞の上奏までの事例を記録する。そして附刻として江南巡撫湯相国の札諭一章と四川全省督撫の札諭七章を掲載する。最後の四川総督黃の札諭は咸豊五年（一八五五）である。

このテキストの比較的早期の刊本は福建復刻本である。〔1〕



復刻の時期は不明であるが、次のような咸豐二年（一八五二）の陳揚之（光烈）の序文を冒頭に掲載している。

今錫鑫王君、彙採『集要』一書、以聖諭為綱領、博收俗講『怪回頭』『指路碑』『法戒録』『規戒録』『覺世新編』『覺世盤銘』

銘』『切近新録』諸書為案証。……誠宣講之善本也。所願閱是書者、虚心涵泳、切己体察、以言坊行、表之躬聞。……茲因『集要』書成、特記數言、以為世之宣講者勸。（いま王錫鑫君が『宣講集要』一書を編修した。聖諭を綱領として『怪回頭』『指路碑』『法戒録』『規戒録』『覺世新編』『覺世盤銘』『切近新録』などの俗講を案証としている。……まことに宣講の善本である。願わくはこの書を読覧する者は虚心に涵養し、努めて体得し、言行を一致させ、自ら実行してほしい。……ここに『宣講集要』の書が完成するに当たり、特に何句か記して世の宣講者に勧めた。）

いて通俗的な案証を創作して宣講書『宣講集要』を編纂したようである。陳揚之はその完成を祝して序文を贈っている。この書の刊行は序文が書かれた時期だと考えるのが妥当であろう。

テキストの封面には「海帆重刊 宣講集要 板藏福省後街宮／巷口 吳玉田刻坊」とある。この書にも巻首末尾に咸豐五年発布の四川総督の札があり、復刊の時期はそれよりも後れることがわかる。

『宣講集要』はまた咸豐十一年（一八六一）に湖北の善堂で復刻されたようだ。民国本（上海錦章図書局石印）巻十四案証「信神獲福」には、湖北潜江县の尤有典なる人物が、疫病に感染した妻を救うために、荊門州の陳韻齋なる人物が同徳堂に寄贈した『宣講集要』を、母の眼病治癒を祈願する張学修なる人物とともに寄付を募って荊州にて復刻したことを記している。このテキストは現在見られないが、巻十四は湖北の案証が多く、テキストの完成の経緯がうかがわれる。なお福建復刻本には巻十四が欠落している。

『宣講集要』はさらに光緒三十二年（一九〇六）に湖南宝慶で吳莘民の経元堂から復刻された。このテキストには翰林院編修郭崇燾（一八一八～一八九一、湖南湘陰人）の序文を冠している。

今見是書、于十六条加以細注、徵引古今事跡、均有実証。所採各種歌調、雖未尽善、雅俗参半、可為宣講推广之意。願各处儒士紳耆深体列聖教民厚意、衷心力行以此書為珍宝、則幸甚。（いまこの書を見ると、聖諭十六条に詳細な注を加え、古今の事跡を引用して、実証を示している。また採集した歌曲も、すべて出来が良





三善回天	四川成都	淡泊	沒得	開消	嫌貧受貧	道光	蓬邑(蓬州)	淡泊	家屋	
大德化鄉	吳興(江蘇)	落雨			神譴自回	道光	遂邑(遂寧)	攏來		
祝地成潭	崇安(福建)	想方			血書見志	漢	簡州	傷慘		
無心得地	順天府	煞擺			積米奉親	漢	四川德陽	傷慘		
化蛇報怨	亳州(安徽)	記倒			小樓達子	明崇禎	湖北鄖陽	想方		
忍讓睦鄰	四川叙州	自盤吃穿			刻薄受報	明崇禎	湖北	想方		
解忿愈疾	江陵(湖北)	一盤			勸弟淡財	明末	武昌府(湖北)	陰倒		
敗節變豬	浙江平湖	想方			孝善逃劫	明末	江西高安	方團		
搜苗報仇	長洲(江蘇)	想方			務本業以定民志	乾隆	浙江嘉興	照到		
搜鷄惹人	四川宜賓	掃			務本業案	雍正		傷慘		
重農桑以足衣食	順慶府南充	淡泊			天理解厄	漢		盤不到		
農桑法語	太原(山西)	做活路			自了漢	明		傷慘		
務本力農	廣西	沒得			勸盜賊	漢		會哨(集合)		
尚節儉以惜財用	四川銅梁	陰倒			女軀男身	乾隆	蜀川	淡泊		
惜福報	叙州府琪縣	傷慘			估嫁妻	乾隆	四川重慶	傷慘		
黃氏遊冥	四川成都府	根基			方便美報	宋仁宗時	江南寧國府	淡泊		
暴殄天物	川東	跟倒			訓子弟以禁非為	嘉慶	湖廣少陽	淡泊		
陸字杖以端士習	四川廣元	淡泊			成玉教子	戰國	浙江	淡泊		
修德獲名	四川充國城	消夜			孟母教子	戰國	四川德陽	記倒		
葬師獲名	山西	角孽			鳴鐘訴冤	道光	汴州(河南)	沒得		
疏財美報	山西	歇氣			現眼報	康熙	里民府	接親		
垂青傷身	山西	團方			強盜咬母	昔年	陝西鳳翔	花心		
國常壁馬	山西	盤家			淫逆報	道光	雲南	朝日裡		
借字獲金	山西	歇氣			獨脚板	道光	德陽	喇哪		
濫寫遺謫	戰國	哄倒			二人頭	道光	瀘州	勤扒苦掙		
情節變天	鄴都(河南)	嘆			焦氏殉節	道光	寧國府宣城	翻稍		
點異端以崇正字	新鄭(山西)	嘆			用先改過	本朝	浙江昌化	當倒		
送河伯婦	杭州(浙江)	嘆			團圓報	前代	休寧(安徽)	想方設計		
勸民俚歌	屋頭	屋頭			卷十三		廣東饒平	淡泊		
燒丹詐財報德	歇氣	歇氣			息誠告以全善良		安定	沒得方想		
講法律以警愚頑	屋頭	嫖賭嚼搖			忠孝節義		文鼎	放稍		
宣講美報	川北順慶府	盤			戒匪逆以免株連			嘆		
鑽耳獄宣講	重慶府合州	歇氣			貪財後悔			躲不倒		
談白話宣講	福建福寧	角孽			完錢糧以省催科					
息訟得財	會稽郡陽羨	薄淡			教民完糧					
明禮讓以厚風俗	江西	傷慘								
讓座立名	河南開封府	驢臉驢嘴								
分米濟貧										
忍飢成美										
積怨承宗										
玷節現報										

聯保中以弭盜賊 貪財受害 鳴鼓擒賊 解警念以重身命 小忿喪身 王生買董 雪花銀 金玉滿堂	北魏宣武 定遠原(四川) 兗州(山東)	聽倒 消夜 使錢淘氣	沒得	方中
昔年 東鄉 湖州(浙江) 常州(江蘇) 萊州(山東)	下梢 記倒 苦扒苦掙	問倒	沒得	沒得 翻跳 下梢 記倒
卷十四 誠孝格天 逆子遭讎 冥案美錄 淫惡巧報 欺貧賭眼 宣講解冤 施公奇案 湖女現報 司命顯化 冤孽現報 毀謗受讎 善恩速報 信神獲福	咸豐 昔 咸豐 咸豐 咸豐 咸豐 咸豐 咸豐 咸豐 咸豐 咸豐 咸豐 咸豐	傷慘 傷慘 傷慘 傷慘 傷慘 傷慘 傷慘 傷慘 傷慘 傷慘 傷慘 傷慘 傷慘	傷慘 傷慘 傷慘 傷慘 傷慘 傷慘 傷慘 傷慘 傷慘 傷慘 傷慘 傷慘 傷慘	傷慘 傷慘 傷慘 傷慘 傷慘 傷慘 傷慘 傷慘 傷慘 傷慘 傷慘 傷慘 傷慘
卷十五 破迷說 勸孝詞十首 受恩十則 報恩十則 警俗勉孝歌 張公日旦嘆世詞 呂祖曉世詞 武聖帝君論 亞拙知足歌 勸世恒言 訓婦合編 利幽歌	蜀川 桂陽城	角孽 慘傷 費力淘氣 活路 盤家口 勤扒苦掙 嫖賭嚼搖	房圈 這達兒	「宣講集要」重刊 睡不濁 「宣講集要」重刊 睡不濁 尋短路

上表のように、『宣講集要』各巻を見ると、四川地方の案証が多く、聖諭十六条の俗講をはじめ、四川以外の案証にも西南官話が用いられている。

その地域分布は以下のとおりである。

卷1	四川3	山東2	山西1	江蘇1	無10
卷2	四川10	江蘇3	直隸2	山西1	雲南1
卷3	四川13	山東1	山西1	江蘇1	直隸1
卷4	四川7	山東2	安徽1	江蘇1	廣東1
卷5	四川7	湖北2	江蘇2	河南2	湖南1
卷6	四川4	直隸3	江蘇3	湖北1	廣東1
卷7	四川6	山西1	直隸1	江蘇1	浙江1
卷8	四川4	湖北2	江蘇2	安徽1	浙江1
卷9	四川7	山西4	廣西1	江蘇1	河南1
卷10	四川7	湖北2	江西2	福建1	江蘇1
卷11	四川2	浙江1	山東1	安徽1	無4
卷12	四川3	浙江2	湖北1	河南1	雲南1
卷13	山東2	安徽1	廣東1	四川1	浙江1
卷14	湖北9	山東2	福建1	四川1	江蘇1

なお『宣講集要』における西南官話の用例は以下のとおりである。また各語彙には『漢語方言大詞典』の用例地域を注記した。

活路—労働。「若是措起做活路、一身汗都淹倒了」(卷1「孝字」)。

想方一方策を考える。「想方設計、也要買米回家」(卷1「孝子」)。

西南官話(湖北武漢・雲南水富)。

接親—嫁を迎えに行く。「貧寒父母都要与兒接個親」(卷1「孝子」)。

西南官話(雲南永勝、貴州赫章)。

驢—垂れる。「至六十大牙或落或驢」(卷1「子路負米」)。西南

官話(四川成都・貴州遵義)。

作翻—吐き気がする。「兒今日心裏作翻、這陣要吐」(卷1「王公

孝友」)。西南官話(湖北隨州)。

單弱—脆弱。「哥哥身体單弱、挑水不起」(卷1「王公孝友」)。西

南官話(貴州清鎮)。

出姓—再婚する。「到不如趁此時早些出姓」(卷4「崔氏守節」)。

西南官話(四川成都・貴州桐梓)。

倒(暈倒)守倒 擱倒 摺倒 記倒 促倒 跟倒 哄倒 照倒 当倒 害倒

聽倒 拋倒 跪倒 戴倒) — 「到」「住」「上」「下」に相当する

動詞補語。「縫一頂布風帽把臉遮倒」(卷2「堂上活仏」)。西南

官話(四川成都・貴州清鎮)。

消夜—夜食する。「辦酒菜陪伴常把夜消」(卷2「堂上活仏」)。西

南官話(湖北武漢・四川成都・貴州黎平)。

煞欄(煞角 煞脚) — 終わる。完成する。「娘望你成了名方有煞欄」

(卷2「痛父尋尸」)。西南官話(湖北武漢・四川成都・貴州黎

平)。

汜—涙などの表現單位。「哭声父来涙汜沙」(卷2「痛父尋尸」)。

西南官話(四川成都)。

那場(那搭兒) — あそこ。どこ。「指出父屍在那場」(卷2「痛父

尋尸」)。西南官話(四川成都)

淡泊(薄淡) — 貧乏。「家淡泊無銀錢誰來看承」(卷2「孝虎祠」)。

西南官話(四川)。

朝日—毎日。「朝日独坐家庭守制尽礼」(卷2「子誠尋父」)。西南

官話(雲南昆明)。

慘傷(傷慘) — 傷心する。「說起此事好慘傷」(卷2「勸孝戒淫」)。

「被賊殺喪真傷慘」(卷5「留嗣成名」)。西南官話(四川成都)。

盤(盤食 盤家 養盤 盤活 盤不到) — 切り盛りする。「偶得一病、

不能盤食」(卷2「片念格天」)。西南官話(四川成都)。

瞎—目を見張る。にらむ。「見你就將眼睛瞎」(卷2「片念格天」)。

西南官話(四川成都・貴州沿河)。

落氣(氣落) — 息を絶つ。「他父親那一日方纔落氣」(卷3「樹夾

惡子」)。西南官話(四川成都・貴州大方)。

下梢—良い結末。「誰知道你死了便無下梢」(卷3「王經怨妻」)。

西南官話。中原官話。

吧哪(吧刺) — しゃべり続ける。「由他說出一吧刺」(卷4「割耳

完貞」)。西南官話(雲南昭通)。

丟心—安心する。「叫為父常望念怎樣丟心」(卷4「崔氏守節」)。

西南官話(四川自貢・邛崃・漢源)。

陀—塊。「我媽送祖肉一陀」(卷5「改過成孝」)。西南官話(四川

邛峽。

陰倒—ひそかに。「陰倒殺一隻狗」(卷6「弟字」)。西南官話(四川邛峽・貴州沿河)。

告化—乞食。「到今朝把化告受尽苦楚与煎熬」(卷6「雲霄埋金」)。

西南官話(四川成都)。官話。

泡毛—粗忽。「我就該聽母教自後不敢再泡毛」(卷6「雲霄埋金」)。

西南官話(四川成都・貴州沿河)。

竿竿—竿。「做事情回回子不逗竿竿」(卷6「高二逐弟」)。西南官話(四川成都・貴州沿河)。

唧唧嚙嚙—唧唧嚙嚙。ささやく。「説他兩個唧唧嚙嚙」(卷6「高二逐弟」)。

落屋—帰宅する。「白日間去貪賭夜不落屋」(卷6「胡耀欺兄」)。

西南官話(湖北武漢・四川成都)。

角孽—口論する。「誰知角孽又嚙嘴」(卷6「古廟呪媳」)。西南官話(四川成都)。

翻梢—翻身する。「等他種得十年八年也會翻梢」(卷8「篤宗族以昭雍睦」)。北京官話。西南官話(湖北武漢・四川成都)。

歇店—旅館に泊まる。「二回来我家不必歇店」(卷13「王生買薑」)。

西南官話(四川成都・雲南昆明)。

黑臉—顔に怒りを表す。「秋娘黑起臉嚙道」(卷13「金玉滿堂」)。

西南官話(四川邛峽)。東北官話。

放稍—金を貸す。「有銀一封、遂借來放稍」(卷13「貪財後悔」)。

西南官話(四川南川)。

嫖賭嚼搖—遊蕩する。「就嫖賭嚼搖、耗費五百串」(卷15「貪財後悔」)。西南官話(四川成都)。

淘氣—心を煩わす。「害得好人使錢淘氣」(卷13「息誣告以全善良」)。

西南官話(四川成都・貴州貴陽)。

勤扒苦掙—勤勞して金を稼ぐ。「幸喜得我祖父勤扒苦掙」(卷13「息訟得財」)。西南官話(湖北武漢・四川成都)。

帶壞—帶害。迷惑を掛ける。「又起禍端又帶壞後人」(卷13「戒匿逃以免株連」)。西南官話(雲南大姚)。

房園—寢室。部屋。「進房園、問親昨夜不安」(卷15「報恩十則」)。

西南官話(四川重慶・雲南文山・貴州赫章)。

西南官話は四川・湖北・湖南北部・広西・貴州・雲南の地域で使用されており、言語だけを見ると、それらのどの地域も編纂地の可能性が考えられるわけであるが、四川の案証が絶対的に多数であることと、

巻首に四川総督の論札があり、巻五にも四川総督の勸善歌が掲載されていることなどからして、『宣講集要』がもともと四川で編纂されたと考えるのが妥当であろう。ただ巻十四だけは湖北の案証が集中している。この部分は復刊の過程で湖北で追加編纂された可能性もある。

そのほか、各地で復刊が行われており、その間に追加された案証も若干あるかも知れない。

『宣講集要』は宣講集の經典として位置づけられよう。全国各地でその復刊が行われた。



光緒三十四年（一九〇八）には雨乞いのため山東德州で復刻された。

王官莊存板、堂邑（山東東昌府）景慶海刻版である。このテキストは後の民国石印本と同じく「絵図宣講集要」「改良宣講集要」と題する。そして民国三年（一九一四）には上海で石印本が刊行されて全国的に読まれるに至る。

『宣講集要』は多くの宣講集の先駆であつた。このテキストに続いて、

羅永儀『緩歩雲梯集』四卷（同治二年（一八六三）、四川）羅溪

莊跛仙『宣講拾遺』六卷（同治十一年（一八七二）序、天津）

同『宣講選録』十二卷（同年）

『宣講博聞録』十六卷（光緒十四年（一八八八）、廣東広州）

『觸目警心』五卷（光緒十九年（一八九三））

省三子『躋春台』四卷（光緒二十五年（一八九九）序、四川中江）

『宣講回天』四卷（光緒三十三年（一九〇七））

『聖諭六訓醒世編』六卷（光緒三十四年（一九〇八）奉天營口）

『宣講珠璣』四卷（同年）

『宣講摘要』四卷（同年）

『宣講福報』四卷（同年）

『宣講彙編』四卷（同年）

『宣講金針』四卷（同年、四川）

などの案証集が編集されたことからすれば、その影響は多大であつたと考えられよう。

### 三 『緩歩雲梯集』と方言

『宣講集要』に続いて同治二年（一八六三）に復刻された『緩歩雲梯集』四巻もどこで編纂されたかは明記していない。冒頭には復刻に際して黄海雲なる人物から依頼されて書いた候選教職の篠塘王紹棻の序文を掲載する。

続く原序には、龍溪の羅永儀が鄧吉堂の勧めに従つて八十一案を創作し、劉石貞が校勘して完成したこと、はじめ『孽鏡台』と命名したが、関聖帝君が『緩歩雲梯集』と命名したことを記している。羅の序文には以下のように、民衆にわかりやすくするため、俗語を用いて案証を作成したと記している。

儀曰、「余何人哉。敢以俗言俗語為世勸哉。」吉堂曰、「此書專為俗人勸。对俗人而談俗話、正欲俗而不得耳。」儀因吉堂諄囑、始勉成八十一案。」（永儀いわく、「私は何者であり、あえて俗言俗語によつて世間に善を勧めようとするのか」と。吉堂いわく、「この書はもっぱら俗人に善を勧めるのであり、俗人に対しては俗語を語るものであり、俗であろうとしてもできないのである」と。永儀は吉堂の励ましによつて何とか八十一案を完成した。）

羅の出身地である龍溪という地名は各地に存在するが、四川の龍溪であろう。案証の俗語には下表のように四川の案証が多く（28/81）、四川以外の案証を含めて、すべての案証に西南官話が使用されている



雙生床 食利賭妻 儉吝弁 簸箕逐鬼 肉牛爬背	昔	畢山(壁山?) 河南開封府	跟倒 傷修	腰店 跟	腔口 錢文 事奉 朝日 屋頭 「龍圖公案」借衣
	罐子場	鄂川縣	開消 筵子	房圍 啤	嘆 正大 爬不得 側近朝日 合式 嘆 估騙 接親 吓
		垣子			

打緊—引き締める。「愛打緊算盤」(卷1「双孝報」)。西南官話

(四川成都)。

二把手—副責任者。「幫吳家作二把手」(卷1「双孝報」)。西南官話 (四川成都)。

少午—正午。「少午夜來、都要在對門坡上」(卷1「沈香報孝」)。

西南官話 (四川成都・南川)。

硬健—頑健。「使他父親多有些飯吃、乃能硬健」(卷1「沈香報孝」)。

西南官話 (四川成都)。

瘦康康—↓瘦卡卡。やせ細ったさま。「瘦康康、不挈点、鷄豚補

着」(卷1「蓮花現母」)。西南官話 (四川成都・重慶)。

垣子—平原。「那垣子边上、栽了一株無花果」(卷1「蓮花現母」)。

西南官話 (四川、貴州、雲南)。中原官話。

啤—喊。さげぶ。「樂伸起來、啤媽呀」(卷1「蓮花現母」)。西南

官話 (四川南川)。

理落—かまう。相手にする。「是个孤族、無人理落」(卷1「奇逆

報」)。西南官話 (四川成都)、閩語。

携—量をはかる。「親到佃戶家中攜租」(卷1「画裡藏金」)。西南

官話 (四川成都)。

脱—動作の完成を表す。「我怕你爹把我嫌脱了」(卷1「悔過得妻」)。

西南官話 (四川成都、貴州沿河、広西)。

逗頭—適切である。「從前皮氣、你有好些不逗頭」(卷1「失缸得

缸」)。西南官話 (四川成都、雲南昭通)。

生拉活扯—↓生拉活扯。強引。牽強付会。「隨他口、圖圖說、生

拉活謳」(卷1「崇學重師」)。西南官話 (四川成都)。

頗倒—捨てる。投げ出す。「頗倒銀錢、買囑隣姆」(卷1「蝦蟆說

冤」)。西南官話 (四川成都、雲南)。

放—婚約する。「姑嬢放於何人」(卷1「蝦蟆說冤」)。西南官話

(四川成都)。客話。

釘捶—↓打捶。喧嘩する。「黃蜂針得其價便、累搞李華釘捶」(卷

1「雷劈六惡」)。西南官話 (四川成都)。中原官話。

估位—堅持する。「艾五酒醉估住不挈」(卷2「投岩得虎」)。西南

官話 (四川成都)。中原官話。

住扎—居住する。「你来我家住扎更好」(卷2「紫薇誓」)。西南官

話 (四川成都)。

倒椿—勝負する。「肖氏也是惡媳婦倒椿、指天怨地罵道」(卷2

「忤逆報」)。西南官話 (四川成都)。

坑坑—小穴。「石匠濫醉得很、走到毛廝坑坑」(卷2「活屍報仇」)。

西南官話 (四川成都、貴州、雲南)。湘語。

角—和合する。「張家女子、与那嫂嫂王氏全角不得」(卷2「變牛

還兒」)。西南官話 (貴州桐梓)。

先生—光荣。「譏語雖好、説得臉上好不光生」(卷2「守貧得貴」)。

西南官話(四川成都)。

大齊—皆さん。「且説一段報応、大齊聽聽」(卷2「守貧得貴」)。

西南官話(雲南、貴州、広西)。

齊—到。「那婦人的衣裳、只穿齊半身」(卷2「九女鳴冤」)。西南

官話(四川成都・邛崃、雲南、貴州)。

亮—灯火。「焦氏已先把亮吹了」(卷2「烏龍報主」)。西南官話

(四川成都)。吳語。湘語。贛語。

攏—到着する。「不上一月攏京」(卷3「惜命還命」)。西南官話

(四川成都・自貢、貴州畢節)。

估—迫る。強制する。「扯着龍孫、作成估姦詐害」(卷3「代死酬

恩」)。西南官話(四川成都)。

那久—長い間。「有半個時辰那久、又聽得靴子走路声氣」(卷3

「還頭誅僕」)。西南官話(湖南嘉禾)。

搥—担ぐ。「将米買了、搥在肩上」(卷3「刻書知府」)。西南官話

(四川成都、貴州)。

打擺子—打様子。瘡を患う。「你今年謹防打擺子」(卷3「甲乙

堂」)。西南官話(湖南嘉禾)。江淮官話。

雅靜—お静かに。「列台雅靜」(卷3「神送三元」)。西南官話(湖

北武漢、四川成都)。晋語。

火房—調理人。「急命火房叫乘轎子」(卷3「神送三元」)。西南官

話(四川成都)。

把耳朵—↓把耳朵。恐妻家。「急命火房叫乘轎子」(卷3「神送三

元」)。西南官話(四川成都)。

張擲—↓張羅。探し回る。「家中看看糧尽、四処親戚張擲」(卷4

「重粟感神」)。西南官話(四川雲陽)。

声氣—声。「是声氣好的先生、説得好聽嘍」(卷4「双目重明」)。

西南官話(四川成都、貴州、湖北武漢)。

卡房—拘留所。「太爺又打一百、丢入卡房」(卷4「燒香殞命」)。

西南官話(四川)。

腔口—口調。「有一老嫗腔口說道、哎呀兒呀」(卷4「双生床」)。

西南官話(四川成都)。晋語。閩語。

跟—給に同じ。「我願減銀五十兩壳跟你」(卷4「貪利賠妻」)。西

南官話(四川、貴州)。贛語。

到仔—極点に達する。「他本来心毒到仔」(卷4「沈兒弁冤」)。西

南官話(四川成都)。

牙吧—齒。「每一月発両回咬緊牙吧」(卷4「沈兒弁冤」)。西南官

話(四川成都、雲南水富)。

痞—そのかす。「誰個与你想方来痞我的兒子」(卷4「沈兒弁冤」)。

西南官話(湖南嘉禾)。

娘屋—実家。「哭哭啼啼回他娘屋去了」(卷4「罵鷄受譴」)。西南

官話(湖北宜昌、四川成都)。湘語。



目録	時代	地点	西南官話1	西南官話2	備考
卷一 尋父獲金 孝子伸冤 聽嫂欺兒 閩女逐疫 雷神碑 化懶為勤 金人搬家 紅蛇化逆	乾隆 昔 本朝 西夏拱化 乾隆 昔	臨河垣 麻城縣 新津縣 保寧府閬中 湖廣常德府 江蘇嘉定 長溪	垣 卡房 角孽 黑臉重嘴 發氣 活路 虫虫 盤	啤 消夜 根芽 落屋 爭倒做 放 一盤	這塔 過脚 這塔 「渡人舟」 「阿鼻路」 「王言報」 「渡人舟」 欠嘆 啤
卷二 無名帖 鬼避孝婦 孝婦受累 苦媳報冤 馬前覆水 作善團圓	順治 漢 乾隆	山西平陽府 □陵 河南開封府 順慶府學池 貴州大定府	黑臉 擺(到) 活路 待倒 磋磨 待倒	擗賭擗搖 擗 擗 擗 擗 擗 擗	「渡人舟」 「阿鼻路」 破迷子著 「阿鼻路」 盤 跟倒 同倒 啤
卷四 滴血成珠 金玉滿堂 嫁嫂失妻 頂門針 雪花銀	宋仁宗 漢 明末	四川保寧府 徽州 杭州 大竹原 常州	傷慘 盤 翻稍 揆揆揆揆 患患	么店子 哈米湯 記倒 很(凶暴) 哈酒	「嘆迷錄」 「阿鼻路」 「嘆迷錄」 嘆 盤 淘氣 黑臉重嘴

3、『宣講摘要』四卷

目録	時代	地点	西南官話1	西南官話2	備考
卷一 至孝格親 苦孝獲金 鳳山遇母 捨子養母 青龍山 和尚墳 五子哭墳 判家私	乾隆 唐時 昔 道光 昔年	四川雅州 雲南果山 秀州 湖廣桂陽縣 保寧南江縣 重慶府	根芽 盤家 活路 薑薑(全) 勤爬苦做 光薑薑 磋磨	細娃 花心 欠倒欠倒 哈湯 盤家 活路 哈酒	「渡人舟」 「連論集成」 「培元鑑」 「阿鼻路」 「青雲梯」 「避雨艇」 「連論集成」 「航中帆」
卷一 閩氏建坊 捨命伸冤 雪裡救母 孝化悍婆 二難題門	乾隆 宋太宗	夔府奉節縣 湖廣德安府 潼州府三台縣 重慶府	篳篳(髮飾) 耙(貼) 裏倒 啤 背時	慘傷 挖(做) 盤家	新案 「連論集成」 「宣講摘要」 「破迷針砭」 「渡人舟」

目録	時代	地点	西南官話1	西南官話2	備考
卷一 助夫頭采 遺命配醜 還人頭願	道光 明末 道光	安化縣 荊州 四川永寧縣	傷慘 淚沓沙 心思很	估住 腰店 光重董	「培元鑑」 「處世針砭」 「培元鑑」
卷二 皇天不欺 天理良心 剖腹換心 改心獲嗣 收債還債 冤枉話 命相連 玉連環	昔 昔 昔 昔 昔 昔 昔 昔	巴州 衡州府衡山縣 龍門縣 湖廣桂陽縣 普州古城縣 湖南武陵縣 徽州 山西太原	估槍 根芽 磋磨 估住 坐倒在等 煞擗 使氣 心裡欠倒	擗屋 擗賭擗搖 擗擗 擗米 沒得下梢 一大陀 歇房	新案 「渡迷航」 「治平安錄」 「治平安錄」 「治平安錄」 「治平安錄」 「琉璃燈」 「嘆迷自新錄」 「嘆迷自新錄」
卷四 善惡異報 婦正成真 貞淫異報 獨脚板 鴨嘴湖 七星劍 牛眠吉地 紅字牛 烏龜凸	明永樂 昔 昔 昔 昔 昔 昔 昔 昔	浙江昌化縣 徽州歙縣 德陽縣 武崗縣 杭州 曹州 福建省	當倒 跟倒 光椿椿 脚板 拌蛋 傷慘 淋淋 盤家	擗米 擗(跟) 慘傷 汨沓沙 嘆 啤 磋磨 擗 擗 擗	「裕後津梁」 「阿鼻路」 「裕後津梁」 「連論集成」 「避雨艇」 「治平安錄」 「治平安錄」 「渡人舟」 「培元鑑」

4、『宣講福報』四卷

目録	時代	地点	西南官話1	西南官話2	備考
卷一 力挽頹風 為善獲福 吉祥報 五桂聯芳 隔世報冤 一團穢氣 戒烟獲報 飯善訴苦	道光 咸豐 昔 昔 昔 昔 道光 咸豐	順慶 江南徽州 河東青獅鎮 北京燕山 廣東省 重慶府南川縣 四川昭化縣 營山縣	腰店 陰倒 活路 細娃 家屋 坐倒 照倒做 淘氣	卡房 尋短路 放撥薑 坐倒 啤 吠 戒不脫 驢臉	「正心集」 「敦倫集」 「洗心集」 「善世元」 「善淫報」 「正論集」 「洗心集」 「化迷集」
卷一 嫁身娶媳 一室翻稍 賢婦敦睦 勸夫四正 順妻棄母	隋	山東唐州府 武城 廣西臨桂縣 定遠縣 安化縣	勤扒苦掙 陰倒 記倒 空子(患者) 發氣	盤家 黑臉重嘴 想方 翻稍 陰倒	「善淫報」 「醒迷丹」 「正心集」 「養正集」 「善淫報」

紅繡鞋	明嘉靖	黃浦溪	顧臉	啞	「喚迷錄」
牛倒桿場	昔	德陽縣	陰倒	角孽	「醒迷丹」
孝感雷神	昔	青州	煞欄	活路	「救倫集」
友愛致祥	康熙	四川省忠州	做活路	攏屋	「福壽花」
沢及枯骨	昔	浙江	棧房	家屋	「壽世元」
和順可風	宋仁宗	湖広保康縣	臉駙嘴噉	娘屋	「心休集」
二子索命	道光	蓬邑	盤大	傷慘	「順天錄」
再世成仇	道光	嘉魚縣	黑臉駙嘴	歇氣	「化迷集」
逆婦天誅	咸豐	施南府利川縣	丟心	患思	「救倫集」
審牙床	道光	湖南澧州慈利	慘傷	泡毛	「洗心集」
卷四					
駕破舟	咸豐	広西思恩府	嫖賭嚼搖	林礙	「順天錄」
濫磁纏	康熙	安徽省太和州	逼倒	映	「順天錄」
蘿補頂	康熙	河南省南陽縣	肘架子	消夜	「福壽花」
陰陽扇	咸豐	潼川府蓬溪縣	跟倒	嫖賭嚼搖	「醒夢集」
活報誣節	前咸豐	利川縣	發氣	尋短路	「養正集」
嫌媳惡報		合州	細娃	做活路	「正倫集」
雙報応	道光	德陽縣	脚板	想方	「福壽花」

五 その他の宣講集

1、「宣講大全」不分卷（光緒三十四年序、民国二十六年編印）  
 西湖俠漢が湖北漢口で著した序文には編者の名前を記さないが、  
 嘗覽陰隲書不下數十種、而瑤函一集、尤為美備、心甚儀之。（こ  
 れまで勸善書を数十種以上見ているが、貴翰の宣講集はもつとも  
 出来がよく、手本とすべきである。）  
 と賞賛している。この宣講集にも、多くの案証に西南官話が多少とも  
 使用されている。いま例証すると以下のようになる。

目録	時代	地点	西南官話1	西南官話2	備考
苦心行孝	乾隆	四川雅州	淚沓沙	花心	細娃
不孝遭擊	道光	新寧縣	嫖賭嚼遙		
弟道可風	明嘉靖	湖広黃岡縣			
忤逆受報	元順帝	山西太原府			
拒淫登科	康熙	安徽省杭州	擣		
悍婦逆報	康熙	四川金堂縣	活路	估愚	
金玉滿堂	道光	四川金堂縣	黑臉	活路	
嫁嫂夫妻	道光	徽州	打棧	欠	
善惡兩報	道光	杭州	打棧	出姓	
処女守孀	嘉慶	甘肅咸陽			
傷生慘死	雍正	北京宛平縣			
善惡異報	雍正	四川彭水縣			
培基得第	康熙	四川石柱府			
孝獲宝珠	晉	山東曲阜縣			
純孝化逆	後漢	山東青州府	捱擺子	傷慘	
聞氏建坊	乾隆	夔府奉節縣	腰店	擣倒	
雪裏救母	康熙	潼川府三台縣	腰店	擣倒	
叨喚償命	康熙	湖広黃岡縣	腰店	擣倒	
挖墓乞食	康熙	荊陽	擣倒	擣倒	
貪財遭禍	乾隆	四川鞏縣	擣倒	擣倒	
飯無常	康熙	四川洛城	擣倒	擣倒	
助夫顯榮	道光	安化縣	擣倒	擣倒	
捨命伸冤	乾隆	湖広德安府	擣倒	擣倒	
純孝獲福	道光	四川秀山縣	擣倒	擣倒	
濕氣殺身	道光	江西吉安府	擣倒	擣倒	
靈前認弟		吳興	擣倒	擣倒	
城隍報		雲南文州	擣倒	擣倒	
判家私	昔	重慶府	擣倒	擣倒	
鴨嘴湖	唐	武崗縣	擣倒	擣倒	
鳳山遇母	順治	雲南果山	擣倒	擣倒	
夢仙賜子	順治	當途	擣倒	擣倒	
還妻得子	道光	西安府	擣倒	擣倒	
節孝全義	雍正	蜀省安岳縣	擣倒	擣倒	
貪淫獲報	雍正	山東兗州府	擣倒	擣倒	
捐金獲福	明永樂	保寧府閭中縣	擣倒	擣倒	
鬼斷家私	拱化	廣西桂林府	擣倒	擣倒	
雷神	明	四川保寧府	擣倒	擣倒	
兄弟齊榮	宋仁宗	重慶府	擣倒	擣倒	
滴血成珠		巫山縣	擣倒	擣倒	
孝化悍婆			擣倒	擣倒	
敬禮美報			擣倒	擣倒	

双警現報	活鬼捉奸	阻善慘報	貞淫異報	馬前覆水	閨女逐疫	溺女慘報	戒湖歌	積德美報	一文不苟	孝友無雙	清白善報	後母賢	疏財美報	愚夫駝河	忠孝節義
新寧泉	青州	錢江	徽州歙縣	漢	本朝	昔	明方曆	明方曆	明方曆	明方曆	明方曆	明方曆	明方曆	明方曆	明方曆
傷慘	傷慘	光生	磨磨	黑臉	勤扒苦掙	落店	湖北德安府	湖北德安府	湖北德安府	湖北德安府	湖北德安府	湖北德安府	湖北德安府	湖北德安府	湖北德安府
磨磨	磨磨	抱倒	嚙嘴	嚙嘴	嚙嘴	嚙嘴	一吓	一吓	一吓	一吓	一吓	一吓	一吓	一吓	一吓

2、「觸目警心」五卷

この宣講集は光緒十九年（一八九三）に刊行された。「沙市善成堂蔵版」であり、善成堂は『宣講金針』四巻を出版した巴蜀善成堂と関連の善堂かも知れない。『宣講福報』『宣講珠璣』『宣講大全』の案証を引用しており、その後に編纂された宣講集である。

目録	時代	地点	西南官話1	西南官話2	備考
卷一 五桂聯芳 滴血成珠 白雞公 天賜孝粟 戒烟全節	昔 宋仁宗 道光 道光 道光	四川保寧府 安化原 嘉興	敏擱 傷慘 傷慘 脚板 戒脫	出姓 捨臉 擱屋 擱祖 勤扒苦掙	「宣講福報」 「宣講珠璣」 「增訂輯要」 「福緣善果」 「浪裏生舟」
卷二 白玉圍 便人自便 集冤亭 双還魂 忘恩負義	昔 宋仁宗 昔 昔 昔	山東濟南府 江南寧國府 南龍泉 湖広桂陽 新寧泉	造孽（可憐） 下梢 歇房 消夜 性情很	傷慘 根芽 歇倒 梗（眼）	「方善婦一」 「宣講大全」 「方善婦一」 「方善婦一」 「福緣善果」

作善團圓	貞烈女樓	修路獲金	双槐樹	鴛鴦巧瓶	成人美	孝遇奇緣	珍珠塔	鳳凰山	虐母化慈	飛龍山	太乙指地	愛弟存孤	嫌妻受窮	双屈緣
乾隆	乾豐	光緒	宋	宋	雍正	明	明	明嘉靖	宋	昔	唐	道光	道光	昔
貴州大定府	甘肅正寧州	安岳縣	錢塘縣	江西信府	四川眉眉縣	河南洛陽縣	登州果山縣	梓潼縣	叙州府	泰安府	安徽太平府	福寧州	山東濟南府	山東濟南府
藏倒	根芽	老火	估嫁	樣樣（稷樣）	使氣	牙祭（肉食）	歇店	活路	患患	角孽	陰倒	傷慘	嫖賭嚼搖	傷慘
歇店	估娶	脚板	磨磨	朝日	潑蠻	慘傷	沒得	磨磨	磨磨	板板	擱（抽）	根芽	磨磨	磨磨
「宣講珠璣」	「明善復初」	「明善復初」	「保命金丹」	「福緣善果」	「救劫金丹」	「厄化篇」	「浪裏生舟」	「避兩魁」	「福緣善果」	「宣講大全」	「增訂輯要」	「福緣善果」	「厄化篇」	「方善婦一」

3、「宣講金針」四卷

光緒三十四年（一九〇八）に刊行された。「巴蜀善成堂蔵版」とする。この宣講集でも以下のように、西南官話を使用している。

目録	時代	地点	西南官話1	西南官話2
卷一 思親感神 苦節受封 爭死救兒 息訟獲福 以德報恩 謀產絕後 五世輪廻 欺兄逼寡 安常是福	明嘉靖 昔	定海縣（浙江） 雲南交州 四川潼川府 當陽縣（湖北） 襄陽縣（湖北） 四川叙州興文縣 河南 四川嘉定府 吳江	淘氣 騙臉嚙嘴 挖坑 傷慘 估 活路 估騙 傷慘	下梢 傷慘 空子 估 朝日 朝日 朝日 朝日 朝日
卷二 輪供爭養 友愛化逆 聽刀刻弟 節孝双全	昔 昔 昔 昔	崑陽 順慶府岳池縣 蜀省安岳縣	朝日 角孽 哈水	吧哪 椒眼睛 振窮 跪倒



鴛鴦鏡	雅正	晋州	盤	活路
三虎受報	昔	江津県(四川)	角孽	驢臉
卷二				
双詒封	西晋	河南孟津	斂擱	喫哈
鴉鵲報	康熙	湖南省宣恩県	卡	卡房
審櫃子		荊州府	淡泊	麻筋
鬼呈冤	嘉慶	湖広		
恩將仇報	宋仁宗	登州		
殺身成仁	昔明天啓		孽角	慘傷
虎含蛇咬		金洋県	驢嘴臉	傷慘
屠身全孝			傷慘	
卷四				
双遼京	康熙	山西太原県	盤	
双義坊		河南開封府	丟心	害倒
双成仏		湖広黃州	擺屋	害倒
来生賬	乾隆	直隸州	放	斂擱
死屍咬入	昔	山東濟南府	估住	閉倒
二驛負財				
巧淫巧報	嘉慶	梁邑(四川)		

## 六 結び

清朝は民衆教化のために聖諭六訓、聖諭十六条の宣講を全国的に施行したが、清末に至ると、民衆への浸透をはかって、宗教的な因果応報説話である案証の宣講が流行した。その筆頭は『宣講集要』であり、まず聖諭二十二条を通俗的に講釈し、その後以案証宣講を行うという手法を取っていた。その際に民衆にわかりやすい俗語を使用したのが、これを一九九九年に刊行された『漢語方言大詞典』によると、その中には西南官話が多く使用されていることが明らかになった。四川の案証が多く、四川の総督の勸善文が掲載されていることからして、筆者

は『宣講集要』は基本的に四川で編纂されたと考える。

四川では案証集である『救生船』などが編纂されていた。ただその実態は現存する案証集が少ないため、明らかではない。今後、そうした資料が発見されることが期待される。

『宣講集要』は後に全国で復刻されるとともに、それに倣った宣講集が編纂された。上記の諸集以外にも、『宣講万選青錢』四卷、『宣講回天』四卷などにも西南官話の使用が見られ、西南官話地域における宣講集編纂の実態が把握できるのである。

なお宣講集のテキストは『漢語方言大詞典』にも引用されない語彙が存在する。今後、方言語彙の研究資料として活用されることが望まれる。<sup>3)</sup>

### 注

(1) 陳兆南『宣講及其唱本研究』(一九九二)二八八頁参照。中央図書館台湾分館蔵。残本。

(2) たとえば『京都大学人文科学研究所漢籍目録』には、『宣講集要十五卷首一卷 清郭崇燾編 光緒三十二年宝慶吳氏經元堂刊本』と記す。

(3) 方言辞典として、『漢語方言大詞典』のほかに、蔣宗福『四川方言詞語考釈』(二〇〇二、巴蜀書社)、『現代漢語大詞典』(二〇〇二、江蘇教育出版社)がある。